

広島サミット

首脳へ提言

— 今の国際情勢は。 —

「世界は大きな変動期にある。国連安全保障理事会で常任理事国を務めるロシアがウクライナに侵攻し、国連を中心に形成してきた秩序が破られた。かつて圧倒的だった米国の抑止力にも大きな疑問符が付いている」

— 先進7カ国首脳会議（G7広島サミット）に期待することは。 —

「G7が果たすべき役割は



元外務審議官 田中 均氏

— 1 —

大きい。対口制裁やウクライナ支援の継続を確認することは必要だ。だが本心に求められるのは、ロシアにウクライナへの戦争を早くやめさせ、中国との正しい関係を示すことだ」

— 具体的には。 —

「ロシアとの将来的な協議に向けた糸口や対話の余地を

協定（TPP）の加盟交渉に応じてはどうか。中ロへの強い声明を出すことがG7の勝利ではない。二項対立を助長して分断を深めるのが好ましいとは思わない」

中国とどう向き合うか、戦略を練らなければならない。人口が減少する日本が成長を続けるには外需が必要で、地域の平和と安定は最大の国益だ。自民党宏池会を率いる首相は、日中関係を重視する立場のはずだが、どちらかと言うと対中脅威論に傾いている」

近隣国と関係改善急務

示すべきだ。中国に対しては、一方的な行動を許さないとのメッセージを出すと同時に、中国が申請した環太平洋連携

抽象論で語っても世界の共感にはなかなか得られない。米ロ間で失効した中距離核戦力（INF）廃棄条約をもつて、中国も巻き込んで成立させるといった核軍縮・不拡散の明確なメッセージを打ち出すべきだ」

— 強硬姿勢ばかりに偏っているというところか。 —
「日本は戦後最も厳しい安全保障環境にあると言うが、その打開のためにどういう努力をしているのか。短絡的で一方通行の外交ではなく、緻密な戦略を持って各国との関係を改善してもらいたい」

「へたなか・ひとし 1947年生まれ。京大卒。外務省アジア大洋州局長、外務審議官を経て2010年から日本総研国際戦略研究所理事長、22年から同特別顧問。京都府出身」

— 日本外交に注文は。 —
「外交で最も重要なのは近隣諸国との関係構築だ。特に

※6回連載の予定です。
【「サミットを問う」7面】